

中養可イムズ。

大阪市中学校
特別支援教育
担任者会
第84号(新4B)
令和2年
9月7日

野菜作りを復活させました！

諸事情により菜園を2年間休ませていたのですが、今年度は物づくりに興味のある一・二年生がプランターで野菜作りに取り組みました。毎日の水やりも「おいしく育ってね。」と愛情込めて声をかけ、成長観察もこまめに記録を残していきました。

さて、今年の野菜たちは・・・

【きゅうり】

黄色い花が咲きます。他の野菜に比べて成長が早かったようで慌ててネットを取り付けました。



【枝豆】桃色の小さな花が咲くんですよ！



【なす】美しい紫色の花が咲きます。葉脈も紫色です。牛乳を薄めた水を与えると虫がつきにくいそうです。



【ゴーヤ】

黄色の花をつけます。ギザギザの葉が特徴的です。



いろいろな問題点を乗り越えて

ハムシやカメムシに好かれたために細い棒で一匹ずつ駆除するのに苦労したことや、葉ばかり成長して実が成るのが遅くわき芽をとる必要があったこと、実がカラスに狙われたことなど生徒たちは育てる大変さを経験し、なおさら大切に育てようという気持ちが芽生えました。

ついに収穫の時が！

中にはユニークな形のものもありましたが、はち切れんばかりの実に感無量の生徒たち。どのように調理して味わおうか楽しみで仕方ない様子でした。



喜びの食し方紹介♪

(全て家庭に持ち帰り調理したものです。)

- ・ゴーヤ↓ハム・卵と炒めると彩りもよく甘くておいしかった。
- ・きゅうり↓自分で切って塩もみして食べた。最高！ 浅漬けにするとポリポリといくらでも食べられた。ごま油で和えてもおいしいよ！
- ・なす↓炒めても煮びたしでもおいしかった。
- ・枝豆↓さやは立派なのに実が小さくて少し残念だった。味はしつかり「えだまめ」だった。

野菜作りを通して・・・

自分たちで心を込めて育て収穫したという達成感を味わい、その過程で植物を慈しみ成長を喜ぶ心が養われたのではないかと実感しています。来年以降も野菜作りのみならず、『ものづくり』に取り組んでいきたいと考えています。



(大阪市立田辺中学校 島地 ゆかり)

中養可イムズ。

大阪市中学校
特別支援教育
担任者会
第85号(新1B)
令和2年
12月2日

居住地校交流

共同作品での交流

新東淀中学校では、特別支援学級(チャレンジ学級)と東淀川支援学校とで居住地校交流を行っています。

昨年度は東淀川支援学校から本校校区に居住する生徒一名を迎え、チャレンジ学級で卓球バレー大会を行いました。手作りした道具を使い、みんなで楽しく盛り上がりました。



今年度は、新型コロナウイルスの影響により、東淀川支援学校の生徒の来校が難しい状況ですが、なんとか居住地交流を実施したいと、提案されたのが共同作品を作ることでの交流でした。

東淀川支援学校の生徒が作った作品を本校に送ってもらい、その作品にチャレンジ学級の生徒が作った作品を加え、共同作品作りを進めていくということでした。さらに、作品を作っている様子やメッセージを撮影し、ビデオレターにしてお互いが見られるようにすることで、より交流が深まるように工夫しました。そして共同作品を本校の文化発表会、東淀川支援学校の作品展で展示することになりました。これは、今までになかった新しい試みでした。

海の世界

交流生Aさんが作ったちぎり絵の作品は、ビーズでキラキラと飾られているタコが模造紙の真ん中に貼ってありました。

本校では、作業学習の時間に制作を行いました。最初にみんなでビデオレターを見ました。交流生Aさんが一生懸命タコを作っている様子が映っており、「素敵な作品ができるのを楽しみにしています。」とメッセージをもらいました。チャレンジ学級として「モールを使つて海の生き物を作ろう」をテーマに制作に取り組みました。本やインターネットの動画などを見ながらカメラやクラゲを作っている生徒、教員が作るタコやカニを真似て作っている生徒、モールで生き物の型をとり飾りつけていく生徒、巨大な魚を作っている生徒、海の生き物を図鑑から探すところから始めた生徒

など、それぞれが思い思いに海の生き物を作っていました。「海に行ったことがないからわからない。」「カニって足何本やった?」「これどうやって作るん?」「糸と針を垂らして釣りしているようにしよう。」など会話を弾ませながら、楽しく進めていきました。作品作りの二時間の間に、たくさんの海の生き物が完成しました。完成した海の生き物を模造紙に貼っていくと、何も指示をしていないのに、自然と中心のタコに向かってみんなの生き物が泳いでいるように仕上がっていました。交流生Aさんとは同じ空間で一緒に作品作りをしていませんが、一つの作品作りを通じて気持ち一つになったような気がしました。模造紙はあつというまにみんなが作った作品でいっぱいになりました。最後に「海の世界」と題名をつけて完成しました。

出来上がった共同作品を本校の文化発表会で展示し、全校生徒に見てもらいました。今後、東淀川支援学校の作品展に展示してもらう予定です。



まとめに

居住地校交流を通して、本校生徒たちは交流生Aさんが一生懸命に頑張っている様子を知って、良い刺激をもらいました。共同作品作りに積極的に取り組むことができ、とても素敵な作品が完成しました。

新型コロナウイルスの影響で居住地校交流は中止も考えられました。何かできることはなにか考え、今回は作品を通じての交流を実施することができました。同じ空間に居なくても交流できる新しい方法も考えられると実感しました。今後も様々な形を工夫して交流を続けていきたいと思っています。

(大阪市立新東淀中学校 森本泰介)

コロナ感染症下での活動記録

中養可イムズ。

大阪市中学校特別
支援教育担任者会
第86号
2021.3.2 (新2B)

第9回ふれあいデイ キャン

11／12，19，20実
施予定 中止

6月にふれあい行

事主担者等中心メン

くコロナ禍に翻弄された1年間く

(元年度) 第58回卒業生を励ます会

2／28実施予定 中止

主催の(公財)大阪特別支援教育振興会が解散のため今回が最終回の予定でしたが、大阪市では2月29日より全ての公立学校が一斉休校となり、振興会と協議の上、2月25日に中止判断しました。

第63回合同うんどう会

5／28実施予定 中止

一斉休校中ながら、4月1日付で実施に向けて参加希望調査等を発送しました。前後して委員会より「校外活動の原則中止」の通達が出たため4月2日に中止判断しました。

大阪市特別支援教育担任者会全体会

7／1実施 委任状開催

例年5月中旬に実施していたものを延期開催しました。

原則委任状を提出することで参加に替え、

58校が委任状出席しました。

全市研究発表会

10／14実施 参加制限

会場の使用制限のため、各校4名までの参加者制限を設定して実施しました。

参加総数317名

第63回ふれあいステイ

11／4く6実施予定 中止

バーが集まり実施のための配慮事項等の検討会議を行いました。その後、教育委員会と協議の結果「参加生徒の健康保持について十分な安全確保の見通しを立てるのが難しい」との結論により、中止判断しました。

第58回生徒作品展

1／14く20実施予定 中止

秋に一時コロナ感染症が全国的に下火になり、実施する方向で準備を進め、参加希望調査を実施し、合同モニメント作製の段取りも進めました。

しかし11月からコロナ感染症の第3波が広がり、「大阪モデル」レッドステージ(非常事態)発出。それを受けて12月9日に中止判断しました。

年度末研修報告会

3／2実施予定

現時点で大阪府に緊急事態宣言が出ていますが、2月7日までの予定なので実施の方向で進めています。今後延長された場合は発表を資料で配付する「紙上開催」に変更する予定です。

生徒たちにとっても我々にとってもとても歯がゆく残念な一年だったと思います。来年度は収束し正常化されることを切に願います。

(大阪市中学校特別支援教育担任者会

会長 寺本紀夫)

未来の共生社会へ

私が彼女と出会ったのは彼女が六年生の時でした。少し恥ずかしがり屋の明るい女の子で車いすを使用し生活全般に介助を必要としていました。今回伝えたかったのは彼女の頑張りだけではなく、彼女を一人とした新豊崎三十七期生の成長についてです。

彼女は入学当初から授業はもちろん学校生活全般をみんなと同じように過ごしてきましたが、苦勞した中の一つに体育がありました。日常の授業では彼女が出来ることを支援者とともに一つ一つ重ねながら参加していましたが球技大会や体育大会のような勝敗のかかった取り組みとなるとなかなか同じようには参加できません。

一年生の球技大会はドッジボール。これは車いすの背中の部分にボールが当たるとアウトというルールを決めました。友達に押してもらっているとは必然アウトにはなりづらくボールの行方を見ながらコートにいるだけのことも多かったです。

体育大会の学年種目は玉入れ。友達が背負うかごの中に球を入れますが地面に玉を叩きつけて終わりました。

一年間の経験を通して少しずつ子どもたちは成長します。何とか車いすでも参加できないだろうか子どもたちから考え始めてくれました。

二年生の球技大会はサッカーとバレーボール。サッカーではスローインは必ず彼女が行い、バレーボールでは彼女が力を振り絞って投げたボールを味方がレシーブし、それを相手チームへのサーブとするというローカルルールを作りました。彼女がプレーしやすいよ

うにクラスという枠を取っ払ってのチーム編成もしてくれました。

そして三年生の体育大会。今までは競技にどのような彼女が参加できるかを考えてくれていた子どもたちでしたが、三年目はみんなが同じ条件で活動できるようにと競技自体を考えてくれました。

それが車いすに乗りながら行う全員リレーです。

一種目はパスをしながら車いすで進み友達に背負うかごにシュート。

二種目は車いす縄跳び。一人が車いすで進みそれに合わせて二人が縄を回します。

三種目はボーリング。車いすから様々なボールを投げてペットボトルで作ったピンを倒します。

最後の種目は車いすに乗っている人の指示を聞きながらアイマスクをした人が車いすを押して進みます。

これらの競技を体育委員が考え全員が取り組みました。彼女の支援者は誰もいません。いなくても参加できるのです。

競技後の退場も学年の先生たちとハイタッチを交わしグラウンドにハートを描きながらの退場です。

その中には彼女や競技のまま車いすに乗っている生徒がいます。全員が笑顔です。子どもたちの笑顔と描かれたハートに心が温かくなるとともに、この子どもたちが築く共生社会に希望を感じました。

彼らを取り巻く様々な状況の下で、他者を思いやり何とか共に生きていく力を発揮してくれることを今後も期待しています。

(新豊崎中学校 中原富美子)

生活単元学習

本校の特別支援学級では生活単元学習として、毎年ジャガイモやキュウリ、ニンジン、いちごなど数種類の野菜を栽培・収穫しています。実際に土に触れ、栽培についての過程を学ぶことで、いつもスーパーで買う野菜がどれだけの手間と愛情をかけて育てられているのかを肌で感じ、自らの手で収穫することで感謝の気持ちや喜びを味わっています。今回はさつまいもの栽培、収穫、調理を行いました。

六月、さつまいもを植えるために畑を耕しました。力作業のため、途中で嫌になつてしまう場面もありましたが、大きなさつまいもが育つようにと力を振り絞って作業をしました。なかにはミミズなどの虫に対して嫌がつている生徒もいました



さつまいもの大きさに喜ぶ生徒



さつまいもを掘る様子

たが、ふわふわの柔らかい土を初めて体験した生徒もいました。また鍬の使い方にも手こずりましたが、立派な畝を作ることができ、一人ひとりさつまいもの苗を植えることができました。

十月下旬、さつまいもの収穫です。土の中はどうなっているのかわくわ



見事に育ったさつまいも

することができ、大きさを競い合いながら楽しんでる生徒の姿を見ることができました。

十二月、安全面や衛生面、またコロナウイルス対策に気を配りながら収穫したさつまいもで大学芋作りを行いました。さつまいもをきれいに洗う人、さつまいもを切る人、調味料を作る人など、それぞれが分担・協力しながら進めることができました。

また、自分たちで栽培から収穫まで行なったのでおいしさもより一層格別でした。出来上がった大学芋をみんな「おいしい」と笑顔で頬張っていました。



大学芋作りに挑戦

このような活動

本校では「自産自

消」を目

標に、自然と触れ合いながら野菜を育てる“楽しさ”、収穫する“喜び”、そして食することで“感謝の気持ち”“達成感”を味わえる生活単元学習を目指し日々取り組んでいます。

(玉津中学校 浅井聖末)

「スマイルミケコさんカフェ」

相生中学校では、昨年度から社会体験として地域交流を始め、月に一回、東成工房という就労継続支援B型の施設の利用者さんやスタッフの方々が協力して開いている「スマイルミケコさんカフェ」に行かせていただいています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で「スマイルミケコさんカフェ」には行けていませんが、生徒たちは感染症が一日も早く収束し、また行ける日を楽しみにしています。

《取り組みの成果》

これまで特別支援学級として地域の方々と触れ合う機会がなく、初めての取り組みでした。利用者さんやスタッフの方々はとても優しく、私たちのことを待っていてくれます。利用者さんの中にはコミュニケーションがスムーズにできない方も居られますが、生徒たちは利用者さんのことをしっかりと理解して、交流ができています。

「スマイルミケコさんカフェ」は、ドリンク百円、ケーキ百円、とお手頃でどれも手作りでです。注文してお会計をするということが、生徒たちの一つの成功体験から得られて自信に繋がっています。生徒たちは参加するごとに自信が付き、「先生のお会計もしていい？」と聞いてくるなど「自分は出来る」と感じています。

学校生活や家庭生活においても、「スマイルミケコさんカフェ」に行くことを目標にすることで、お小遣いを貯める、計画を立ててお金を使う、宿題を提出する、遅刻が減るなど

の成果がありました。そして何よりも、利用者さんやスタッフの方々との交流・繋がりができたことが本当に良かったと思います。

《まとめ》

成功体験が得られる場面として地域と連携し、相生中学校の特別支援学級の生徒の存在を知っていただく、生徒たちを理解していただくことが生徒の成功体験や自信に繋がったのではないかと思います。また、地域の方々と生徒たちがお互いを知り理解し合うことで、社会と繋がっている、地域と繋がっていると実感することができると思いました。今後も就労継続支援B型の施設だけでなく、様々な他の地域の施設との繋がりを広げていきたいと考えています。

(相生中学校 西川星乃)



初めて書いた寒中見舞い

淀川中学校の特別支援学級での抽出授業では、生徒それぞれの学習目標に応じた内容を学習しています。普段は、それぞれの学習課題に取り組んでいる生徒たちですが、季節に合った学習として共通の課題に取り組む機会もあります。今回は、共通課題として取り組んだ「寒中見舞いを送ろう」についてご報告します。

この学習に取り組むにあたり、葉書については年賀状や自宅に届くお便りなどで手にしたことはあると予想していました。しかし、初めて手にしたという生徒や、見たことはあっても実際に書いたことはほとんどないという生徒が多かったです。

- 学習の手順
- ① 葉書の購入
 - ② ワークシートの記入
 - ③ 葉書の下書き
 - ④ 清書
 - ⑤ ポストに投函

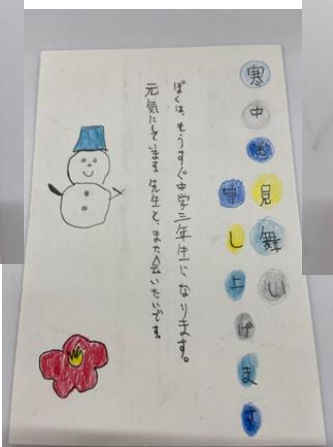
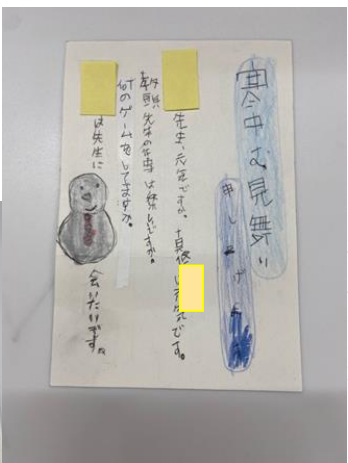
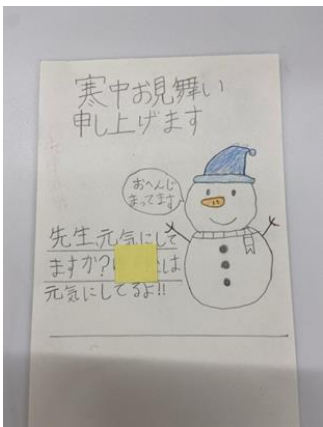
このような手順で学習に取り組みました。
「①葉書の購入」では、葉書一枚の値段と販売している場所を調べてから購入に出かけました。葉書は、郵便局だけではなく普段よく利用するコンビニでも販売されていることが分かり、今回はコンビニで購入しました。

「③葉書の下書き ④清書」では、受け取る相手のことを考えながら丁寧に書くことができました。日常の授業の中で行なう作文よりも、自分自身で選んだ相手へのお便りとなると、書きたいことが浮かぶようで「お返事くだ

さいは書いていいかな」や「おっす！は言ってもいいかな」「会いたいですって書きたい」「元気にしていますか？は書かないと」など、たくさん言葉が湧いてきている様子でした。「⑤ポストに投函」では、ポストは「手紙・葉書」と「大型郵便」で投函口が異なることを知り、自分たちはどちらの投函口を使用するか確認してから投函しました。

「寒中見舞いを送ろう」の取り組みを通して、葉書一枚の値段、葉書の購入場所、葉書の書き方、送る時期、ポストの投函口の種類などたくさん確認できました。そして、日常生活で目にする物事に意識を向けることで、社会生活で生きる知識を身に付けることができると感じました。

（淀川中学校 石橋真由美）



「あおぞら農園」

城陽中学校では、支援学級「あおぞら」に、今年新しく「あおぞら農園」を設置することができました。最初は、とても野菜を植えられる環境ではなく、かちかちの土が、とりあえずあるという状態でした。子どもたちに植栽を通して、何とか、食の大切さを感じてもらいたい、食に興味を持ってもらいたいという思いで、支援学級の先生や子どもたちと一緒に畑をつくっていきました。



今年は、かぼちゃとさつまいもの苗を植えました。初めての畑ということで、比較的、お世話が簡単なものを選びました。子どもたちは交代で水やりや周りの雑草抜き等のお世話をしました。

お世話を続けていく中で、かぼちゃは枯れてしまい、残念な思いをしましたが、さつまいもは、日に日に葉っぱを増やしていき、一面がさつまいもの葉っぱになっていました。



収穫時期になると、さつまいものつるを剥がし、芋の方に栄養がいくようにし、芋が育っていることを願いながら、お世話を続けました。
十一月、さあ、いざ収穫！上の葉っぱを取り、スコップを使いながら、芋を傷つけないように

掘っていきました。びっくりするくらい大きな芋や生き物に似た芋などがありました。子どもたちは「まだ、ここにもある」と宝探しをしているように芋を見つけると嬉しそうに顔で掘り出していました。思っている以上にたくさんのお芋を収穫することができました。たくさん収穫できた芋を、「あおぞらクリスマス会」でみんなに試食してもらおうことにしました。

クリスマス会当日、調理室で支援学級の先生、家庭科の先生の協力のもと、さつまいもを調理しました。まず、さつまいもを洗い、不必要な部分を取り除き、適当な大きさに切っていました。そして、蒸し器を使い、ふかし芋を作りました。



ふかし芋は、クリスマス会のおやつタイムで、みんなで美味しくいただくことができました。支援学級の子どもたちは初めての栽培から収穫、調理、試食まで、貴重な体験ができたと思います。子どもたちの喜ぶ中、収穫することの喜びや、調理し、食べることの大切さを育むことができる活動を今後も続けていきたいと思っています。

（城陽中学校 吉田洋子）

特別支援教育総合研究所の紹介

○インターネットによる講義配信 NISE 学びラボ

障がいのある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質能力向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信、特別支援教育。ラーニングを無料で行なっています。一つのコンテンツは15分～30分程度の講義です。

○発達障がい教育関連

・発達障害教育推進センター

学校における指導・支援について、子どものつまづきを「学習面」「行動面」「社会性」の側面からO&A形式で紹介しています。発達障害の障害特性を踏まえて具体的な事例をもとに、指導・支援方法を解説しています。

・支援教材・支援機器関連（支援教材ポータル）

特別支援教育の教材や支援機器、学校での実践事例を紹介しています。特性別、年齢別、障害別等の様々なニーズに応じた検索ができます。

・インクルーシブ教育システムに関する各校の取組（インクルーシブ教育システム構築データベース（インクル DB））

文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組んだ、子どもの実態から、どのような基礎的環境整備や合理的配慮が有効かについて、参考となる事例が検索できます。学年別、障害別等に絞り込み検索できます。

○インクル COMPASS

・園や学校のインクルーシブ教育システム構築を一層推進するために、現在の取組状況を

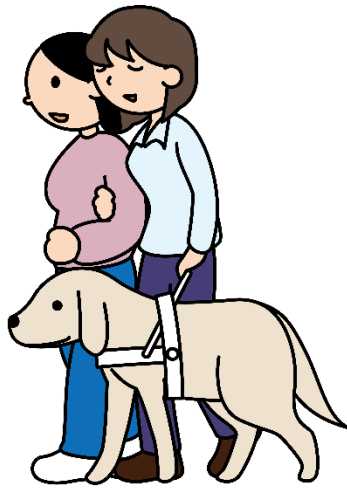
把握し、その結果を踏まえて今後の取組を検討する際のヒントが掴める。

・現状を振り返ることで、園や学校の強みや課題を可視化することができます。

7つの観点の各項目について、園や学校の取組状況をチェックし、これらのチェック結果を総合的に判断して、今後の取組の方向性を検討する。

・各項目をチェックするシートと全体の進捗状況を俯瞰するための「ナビゲーションシート」で構成されています。

1 体制整備 2 施設・設備 3 教育課程 4 指導体制 5 交流及び共同学習 6 移行支援 7 研修



インターネットによる講義配信 NISE学びラボ



本研究所では、障害のある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質能力向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信「NISE 学びラボ」～特別支援教育eラーニング～を行っています。

パソコンやタブレット端末、スマートフォン等がご使用いただけます。1つのコンテンツには、おおよそ15分から30分程度の講義が含まれます。職場や自宅など様々な場所でいつでもご活用ください。

また、学校教育等に関わる方だけでなく、保護者や福祉・医療従事者等どなたでもご登録いただけます。特別支援教育についてご理解いただくためにお役立てください。

配信するコンテンツは、最新の特別支援教育関連情報をお届けできるよう、随時更新してまいります。